

特別史跡

西都原古墳群

発掘調査・保存整備概要報告書(XV)



2013.3

宮崎県教育委員会

例 言

1. 本書は文化庁の補助を受け、宮崎県教育委員会が実施した「西都原古墳群活用促進ゾーン整備事業」の平成24年度の事業概要報告書である。
2. 発掘調査は宮崎県教育委員会が事業主体となり、宮崎県立西都原考古博物館が実施した。
3. 復元整備工事は、県土整備部西都土木事務所に予算を分任して実施した。
4. 発掘調査及び保存整備の実施地点は、下記のとおりである。
 - 西都原201号墳：宮崎県西都市大字三宅字原口二3871番地（発掘調査のみ）
 - 西都原202号墳：宮崎県西都市大字三宅字原口二3930番地（発掘調査及び保存整備）
 - 西都原284号墳：宮崎県西都市大字三宅字笹貫畑4159番-14（発掘調査のみ）
5. 本書の執筆・編集は、宮崎県立西都原考古博物館学芸担当主査 藤木聡が担当した。
6. 発掘調査で出土した遺物は、同博物館にて保管している。

目 次

第Ⅰ章 発掘調査及び整備の経緯	1
第1節 既往の整備事業	
第2節 西都原古墳群活用促進ゾーン整備事業	
第Ⅱ章 西都原201号墳の発掘調査	3
第Ⅲ章 西都原284号墳の発掘調査	4
第Ⅳ章 西都原202号墳の発掘調査	5
第Ⅴ章 西都原202号墳の保存整備	5

第1章 発掘調査及び整備の経緯

第1節 既往の整備事業

西都原古墳群は、大正元年から同6年にかけて、我が国初の学術発掘調査が実施された後、昭和9年5月1日に国の史跡に、昭和27年3月29日には、特別史跡に指定され、保護継承が図られることとなった。後の追加指定を経て、現在の指定面積は、約58万㎡に及んでいる。そして、昭和41年から同43年まで、第1号の『風土記の丘』整備事業が行われ、以後、史跡公園としての環境維持や古墳の保護が図られてきた。

その状況を踏まえた上で、宮崎県教育委員会では「史跡の保護」に加えて「活用」という観点から平成5年度・6年度に「西都原古墳群保存整備検討委員会」を設置し、6年度末に『西都原古墳群保存整備基本計画』をまとめ、それに基づき平成7年度より新たな整備事業に着手している。

平成7年度から同14年度にかけては文化庁の補助事業である「大規模遺跡総合整備事業」（平成9年度より「地方拠点史跡等総合整備事業」）を活用し、発掘調査の成果を基にした古墳の復元整備工事や環境整備、見学施設の建設、土地公有化などが行われた。

その後、平成15年度から19年度には「西都原古墳群歴史ロマン再生空間形成事業」の事業名で、46号墳の発掘調査や111号墳の墳丘復元工事を実施した。

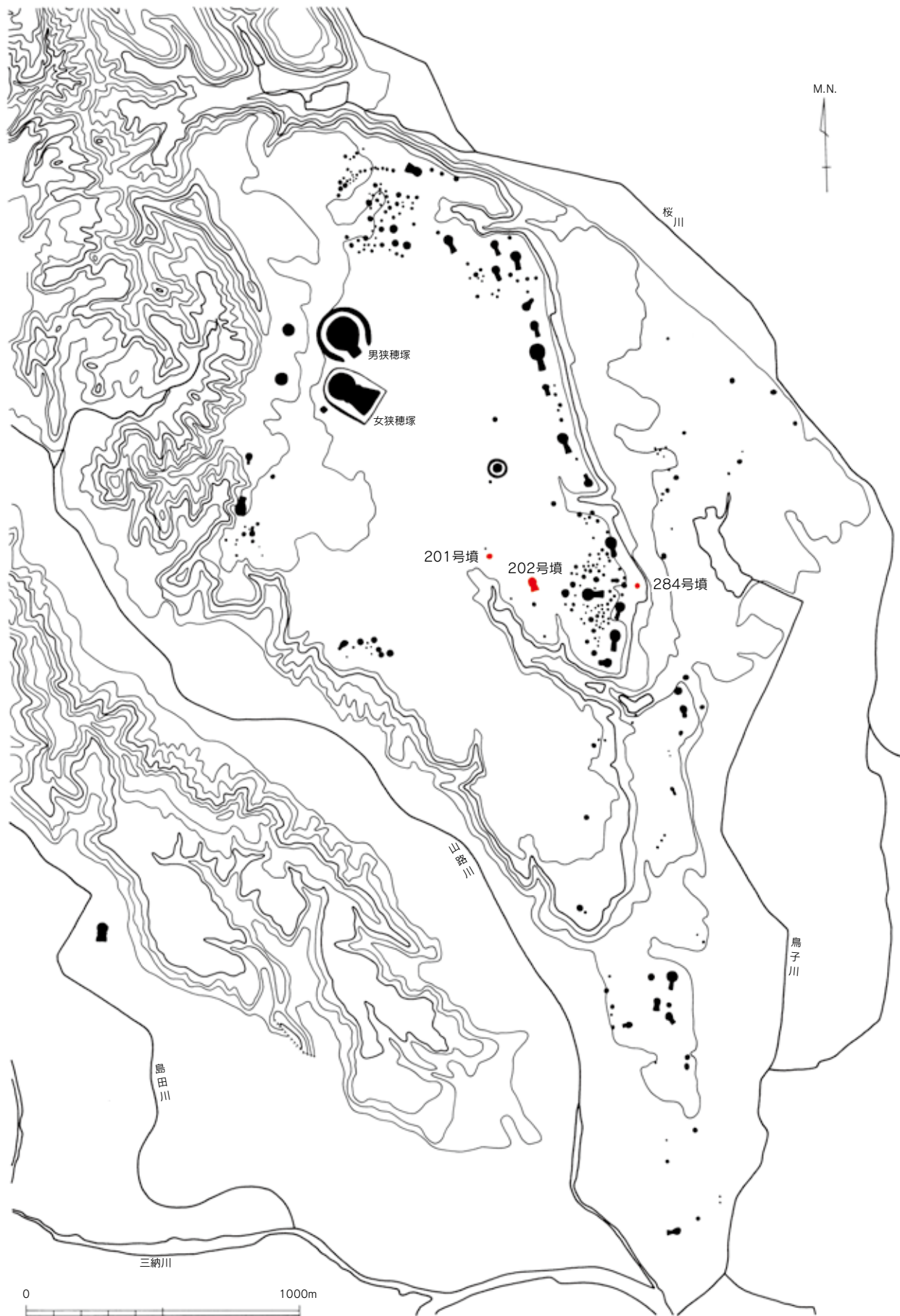
さらに平成20年度からは5か年計画で「西都原古墳群活用促進ゾーン整備事業」により、通称「第1古墳群」を中心とする一帯の保護活用を図ることとなった。

第2節 西都原古墳群活用促進ゾーン整備事業

宮崎県教育委員会では、平成19年度に前述の『西都原古墳群保存整備基本計画』を上位計画と位置づけた上で、新たな整備実施計画を策定し、平成20年度より標記事業に着手している。

当該事業は、広大な面積を擁する西都原古墳群の中でも各時期の前方後円墳が集中し、大正時代の発掘調査も多く実施されている「第1古墳群」を主たる対象と定め、集中的に整備事業を行っていくものである。平成20年から同24年度において、46・202号墳の発掘調査、170号墳周辺の整備工事、201・284号墳の発掘調査を実施したところである。

本年度は、東日本大震災等の関係で休止した平成23年度を挟み、202号墳の継続調査及び201号墳、284号墳について新たに発掘調査を実施した。また、202号墳については、復元工事の実施設計のうえ、12月より整備工事に着手した。



第1図 西都原古墳群全図及び発掘調査・復元整備古墳の位置図

第Ⅱ章 西都原 201 号墳の発掘調査

201 号墳は、西都原台地東南部のグループである通称「第 1 古墳群」の西端に位置する円墳である。201 号墳の西は谷地形となっているが、周辺の古墳分布も、谷の東斜面及び谷の東側の台地上に見られる。周辺の古墳との位置関係では、201 号墳のすぐ北には 200 号墳、酒元ノ上横穴群が分布している。東南方向におよそ 200m の位置には、6 世紀後半に築造され 7 世紀前半まで埋葬施設の見られた前方後円墳である 202 号墳が、北方向へおよそ 350m の位置には、横穴式石室を有する 7 世紀初頭に築造の 206 号墳（鬼の窟古墳）がある。

西都原古墳群において横穴式石室を埋葬主体部とする古墳は、現時点で 206 号墳のみであるが、201 号墳はその墳丘の高さや頂部に見られる大きな凹部より見て、横穴式石室を埋葬主体とする可能性が指摘されてきた。そこで、発掘調査により、墳形や埋葬施設の詳細を把握し、かつ築造年代を絞り込むことで、今後の整備に備えることを目的に調査を進めた。

調査では、まず、地中レーダー探査の所見及び現況の地形測量に基づいて墳丘の中心を想定し、その中心点より放射状にトレンチを設定した。その結果、全周しない可能性を残すとはいえ、一重に巡る周溝が検出された。調査は、次年度も継続する予定である。



201号墳(写真手前)と200号墳(201号墳左)、鬼の窟古墳(写真奥)、酒元ノ上横穴群(左建物)

第三章 西都原 284 号墳の発掘調査

284 号墳は、西都原台地東南部のグループである通称「第 1 古墳群」の東端に位置する円墳である。同墳は、1917（大正 6）年に発掘調査（第六次調査、以下では大正調査とする）における出土遺物から見て、弥生時代の墳丘墓である可能性が指摘されている。そこで、墳形や埋葬施設の詳細を把握し、かつ築造年代を特定することを目的に、調査を進めた。

その結果、墳丘頂部では、大正調査の記録に近似した規模や土層を持つ調査坑を検出し、調査成果等を記した凝灰岩製碑石が埋め戻しに際して埋置されていた。大正坑の壁床面及び墳頂から墳裾へ延ばしたトレンチの観察から、地点として、旧地形の中で段丘崖際のやや高い箇所が選ばれていること、墳丘は、地山ブロック混じりの黒色土を盛るものであり、上部はしまりに欠けるものとはわかった。一方で、確認が期待された埋葬主体の痕跡については、明確でない。墳裾は、墳丘西側等において地山が削り込まれる場合もあったが、周溝は存在しなかった。墳丘東側は、低位段丘へとつながる段丘崖であり、わずかに認められた地形の傾斜変換を墳裾とした。また、弥生時代終末期から古墳時代初頭の壺・高坏・器台等の破片が、墳頂西側に偏って出土し、さらに、同期の壺 1 点について、大正調査による掘り下げ及び表層における攪乱を免れた状況で検出された。

したがって、284 号墳については、遺物整理による詳細年代の絞込みを待つとはいえ、弥生時代終末期から古墳時代初頭の墳丘墓である可能性が非常に高いと結論付けられる。



284号墳調査前。墳頂に標柱、墳裾に境界柱あり。



284号墳の大正調査坑の検出と、墳丘に張り付く壺。



284号墳大正調査坑に埋置の碑石（被覆礫除去後）



284号墳付近の須恵器出土状況

この他、旧石器時代の礫群及び5世紀代の須恵器甕が墳丘の西側において検出された。

第Ⅳ章 西都原 202 号墳の発掘調査

202号墳は、西都原台地東南部のグループである通称「第1古墳群」の西端に位置する前方後円墳である。202号墳では、墳丘の復元整備工事に向けた整理を進める過程で、東側くびれ部付近の周溝内に「陸橋」の存在する可能性が指摘されるに至り、「陸橋」の有無を明らかにする発掘調査を実施した。その結果、陸橋はないと判明したが、周溝の床面について凹凸が大きいことや、くびれ部の墳裾について明瞭な傾斜変換を伴わない点等がより詳細に把握された。

第Ⅴ章 西都原 202 号墳の保存整備

平成20～22・24年度に実施した202号墳の発掘結果を踏まえて、本年度に実施設計を行い、整備工事に着手・完了した。整備工事では、削平が進んでいると判明した墳裾について、これ以上の変形を防ぐために、墳裾について盛土で復元すること、2段築成のテラスを墳丘面に表現すること、周溝の位置を掘り下げて表示すること、いわゆる「外堤帯」について古墳時代のものではないため撤去すること、説明板を設置することを主に実施した。



202号墳の周溝等の土層断面と墳丘の位置



202号墳東側くびれ部周溝の最深部付近の掘り下げ



202号墳調査の俯瞰写真

報告書抄録

ふりがな	とくべつしせき さいとばるこふんぐん はっくつちょうさ・ほぞんせいびがいようほうこくしょ												
書名	特別史跡 西都原古墳群 発掘調査・保存整備概要報告書												
副書名													
シリーズ名													
シリーズ番号	XV												
編著者名	藤木 聡												
発行機関	宮崎県教育委員会（宮崎県立西都原考古博物館）												
所在地	〒880-0805 宮崎県宮崎市橋通東1丁目9番10号 (〒881-0005 宮崎県西都市大字三宅字西都原西5670)												
発行年月日	2013(平成25)年3月31日												
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因					
		市町村	遺跡番号										
さいとばる201ごう ふん 西都原201号墳	みやざきけんさいとしおおあざみやけあざはらぐちに 宮崎県西都市大字三宅字原口二3871	25208		32° 6' 52" 付近	131° 23' 23" 付近	20120824～ 20130330	92.12 ㎡	史跡整備関連					
									種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
										古墳 近世～	円墳（周溝）	土師器・須恵器 陶磁器	
さいとばる202ごう ふん 西都原202号墳	みやざきけんさいとしおおあざみやけあざはらぐちに 宮崎県西都市大字三宅字原口二3930	25208		32° 6' 48" 付近	131° 23' 29" 付近	20120718～ 20120824	100㎡	史跡整備関連					
									種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
									墳墓	縄文 古墳 古代 近世～	前方後円墳（周溝）	磨製石斧 須恵器 糸巻形磁製品	9～10世紀
さいとばる284ごう ふん 西都原284号墳	みやざきけんさいとしおおあざみやけあざささぬきばた 宮崎県西都市大字三宅字笹貫畑4159番-14	25208		32° 6' 48" 付近	131° 23' 44" 付近	20120824～ 20130330	92.75 ㎡	史跡整備関連					
									種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
									墳墓	旧石器・縄文 弥生末～古墳初	礫群（旧石器） 墳丘墓	ナイフ形石器・剥片 壺・高坏・器台	
										古墳 古代～中世		須恵器甕 白磁皿・土師器皿・銭貨	
近世～近代	大正時代の調査坑	碑石・河原石 陶磁器（統制陶器等）・数珠玉											
要約	西都原201号墳は、一重に巡る周溝が検出された。 西都原202号墳は、周溝底面の凹凸が著しいことや東側くびれ部の墳裾が明瞭でない点が把握された。 西都原284号墳は、弥生時代終末期から古墳時代初頭の墳丘墓であり、墳丘上より壺・高坏・器台が出土した。また、墳丘近くより、5世紀代の須恵器甕が出土した。												

特別史跡 **西都原古墳群** 発掘調査・保存整備概要報告書(XV)

2013年3月31日

発行 宮崎県教育委員会（宮崎県立西都原考古博物館）
〒880-0805 宮崎県宮崎市橋通東1丁目9番10号
(〒881-0005 宮崎県西都市大字三宅字西都原西5670)

印刷 藤屋印刷株式会社
〒883-0045 宮崎県日向市本町7-15
TEL 0982(52)7171 FAX 0982(56)1208